

政務活動報告書

報告者 川内 聖二
活動日時 平成 27 年 2 月 2 日～3 日
活動先 山形県鶴岡市温海庁舎・酒田市山居町山居倉庫・酒田市日吉町相馬楼
活動内容 ① あつみ温泉のまちづくりについて
② 酒田市の観光施設の視察
③ 東京シティ テーブルフェスタ「喫茶うれしの」視察
参加者 田中政司、大島恒典、辻 浩一、川内聖二

活動理由

全国的に温泉観光地は、バブル経済の衰退や旅行形態の変化により、観光客数が年々減少し宿泊施設や商店街の店舗数がピーク時の半数以下になっているのが現状である。今回、陰りが見え始めた温泉街の復活へ、鶴岡市あつみ温泉が取り組んだ温泉地区再生への取り組みの視察を行った。二日目は、酒田市日吉町で観光施設の財視察を行い当市の参考となる視察をし最終日は、東京ドームで行われている、テーブルフェスタに出店している「喫茶うれしの」の状況を視察し、今後の嬉野市の特産物や特産品等の販路、消費拡大の参考にと視察を行った。

① 視察内容

あつみ温泉のまちづくりについて ～歩いて楽しい温泉街を目指して～

平成 27 年 2 月 2 日（第 1 日目） 14：30～17：00

開 会	観光商工主査	伊藤 隆 氏
来賓挨拶	温海庁舎市長	鈴木 金右エ門 氏
視察対応	産業化主幹	佐藤 光治 氏
	建設事務室長補佐	剣持 一善 氏
	議会事務局専門員	桜井 寿美 氏

「位置関係」

人口約 14 万人の鶴岡市は、山形県の南西に位置し、平成 10 年に 1 市 4 町 1 村合併し面積約 1,300 km² 東北一の広さを有し、この鶴岡市の地域の一つが温海地区で人口が、約 9,600 人の旧温海町である。平成 2 年にピーク時は、約 35 万人で平成 7 年には、「にっぽんの温泉 100 選」で第 4 位になったあつみ温泉だが、バブル経済等の衰退等で観光客数は年々減少し、このままではと地元の関係者は危機感を抱き始めた。

「温泉客の減少と一つの転機」

平成 12 年に当時、山形県の観光アドバイザーだった東京大学教授の堀 繁氏を講師に招き、「湯のまち景観整備講演会」を開催した。そこで堀教授から、あつみ温泉は魅力がないと厳しい指摘をされ、あつみ温泉街の衰退は、街の魅力をつくってこなかったことが最大の原因と「あつみ温泉魅力づくり

推進委員会」を組織し観光団体や行政とともに街づくりに参画した。推進委員会は、「歩いて楽しい温泉街」を目標とし官民一体となった街づくりを展開していた。

「まちづくりの実践」

まちづくりの実践とし堀教授からは、ソフト・ハード面の指導を受け、まずはハード面の整備に取り組、誰もが歩いてみたくなるような道をつくる・休んで楽しい滞留拠点をつくる・見て楽しい店をつくる、を目標とした。

「湯のまちのリフレッシュ事業」

平成 12 年から基本構想、平成 14 年に湯のまちのリフレッシュ事業とし工事を行い、基本コンセプトに温泉情緒の演出・ホスピタリティ表現(人優先のみちづくり)をするようにした。事業概要は、歩道の段差の解消・道路中央部に足湯、ベンチ、植栽の設置・橋の欄干は透過性に配慮する工事である。昭和 26 年 4 月に旧温泉町時代に大火があり区画整理が行われた。新しい道路は幅員が 15m もありその道路の真ん中に足湯を設置する、他には無い大胆な構想を打ち出したりしている。実施計画の際の問題点として、公安委員会より足湯の周りに防護策の設置の指示がだされた。

「温泉活性化施設整備事業」

温泉活性化施設整備事業とし廃民間保養所をリニューアルし街歩きの拠点にした。施設の目的として、街の情報発信地とし訪れた人を楽しめる場所を提供し、その様子を通り全体ににじみ出させ賑わいを創出するようにしている。施設には、地元の名産品の販売や足湯カフェを設けている。この施設(購入改装費含め 7,000 万円)は最終的に、民間のみちづくりチームに無償で行政より譲り渡し、よって制約に縛られず商品の販売等施設をフルに活かし運営している。

「やすらぎの川整備事業」

県の事業で、やすらぎの川整備事業とし護岸整備にいちづけ 6 箇所の施設の整備工事を施工し各施設には、次のような愛称をつけて観光客に利用していただき、街のイベントにも利用されている。
①「ざっこ見の腰掛け」ベンチ ②「かじかの下り口」かじか川への昇降階段 ③「もっけい湯」足湯 ④「湯涼みの腰掛け」ベンチ ⑤「竿かけのテラス」昇降階段かねてのベンチ ⑥「映し見の腰掛け」ベンチ、施設のほとんどは、街歩きが基本なので休憩所として利用できるように造ってある。

「くらしのみちゾーン整備事業」

道路改良は、くらしのみちゾーン整備事業で平成 15 年に国道交通省の歩行者、自転車の優先施策に取り組む事業に応募し全国 42 地区の 1 つとして登録してある。スーパーモデル地区の応募もあり平成 17 年 3 月に指定を受けた。それまで要望していた無電柱化の案も相手にされてなかったが、スーパーモデル地区に指定を受け、電線管理者の東北電力と NTT と協議し合意するまで 1 年掛かりで国と県の補助を受け電線管理者に施工していただいた。もう 1 つは、今まで対面通行の道路の一方通行化である。これに関しては、地元の旅館等より反対の声もあがったが、このままでは生き残れない、ということで了解をいただき整備を行った。

「整備内容」

整備内容としては、歩行者優先の歩道を整備し一方通行の区間は車両がスピードを出さぬように河川沿いの休憩施設等の構造物を道路側に張り出し運転手にプレッシャーを与えた。道路沿いには、17箇所の形が違う休憩施設を整備し、県が整備した休憩施設が6箇所とし歩いて寛げる歩道を整備した。他には、川と道の一体化するため河川沿いの桜が多すぎて景観を阻害しているのを桜の間引きを行ったり新しく、しだれ桜を植樹した。また、河川護岸に当初あった道路の防護策を撤去するため外の護岸に小段を設けることで防護策を撤去する整備をおこなった。以上のような整備により休日を中心ではあるが歩く観光客の方が多くなった。

「民間、地元住民の変化」

公共事業でハード整備の影響で地元住民が変わった。新しく整備した道路の清掃や商工会中心で、地元の方々が道路を通行止めにしてイベントをたくさん取り組むようになった。

また、既存の商店を増築し出店を増やしたり空き店舗を再生し、お土産屋を出店したり人力車を走らせお客様の集客に取り組んだ。最後に、まだまだ見て楽しい店を造ることは道半ばであると言われた。以上があつみ温泉のこれまでの街づくりの経緯である。

① 【視察研修の感想】

山形県鶴岡市温海庁舎にて以上の説明を受け、1人のアドバイザーと官民が一体となり衰退する温泉街の危機から回避されたことに感銘を受けた。初めにハード面から整備を行い、他には例の無いような足湯の配置や温泉街の中心を流れる川の護岸を観光施設かねて利用できるように整備し、道路の方面では、一方通行化や無電柱化とあらゆる整備が実施されてあるのを視察し驚いた。事業を起こすまでは、反対の声もあったが、このままでは生き残れないという危機感を地元の人達が周知したのが事業を成功させたと思う。このような事例を本市にも取り入れ、全国から注目される街づくりを目標としていきたい。

② 視察内容

山居倉庫 ～自然を利用した低温管理倉庫～

平成27年2月3日（第2日目） 9：30～10：00

「概要」

所在地・山形県酒田市山居町1丁目 竣工・1893年(明治26年) 設計・高橋兼吉

構造・土蔵造り 間口・13.6m 奥行き・29.1m

延床面積・396㎡ 貯蔵能力・四斗入俵(60kg)16442俵(竣工時、倉庫一軒当り)

明治26年に酒田米穀取引所の倉庫とし旧庄内藩酒井家により建造され、明治30年まで14棟建てられ酒田家が管理、運営を行った。倉庫の造りは土蔵造りで建物の基礎下には軟弱地盤対策とし杭木を打込み地盤対策を行っている。これにより明治27年の庄内地震(マグニチュード7.0)耐え損害は僅かなものであった。

また、建物は屋根を二重構造とし断熱効果を考慮し湿気対策とし土間はにがりを混ぜた土で固められ土間全体に温度と湿度を一定に保つように塩を敷き均してある。外工は暴風対策とし冬季の厳しい季節風から倉庫守るため、けや木を配置してある。

しかし、昭和 14 年に取引所は、米穀配給統制法により廃止されたがその後、全国農業組合連合会庄内本部とし現在まで運用されている。

相馬楼 舞妓茶屋 雛蔵畫廊 ～登録有形文化財～

平成 27 年 2 月 3 日（第 2 日目） 10：30～11：30

相馬楼は、江戸時代より料亭「相馬屋」として開業していた。現在残る木造の主屋は、明治 27 年の庄内大震災の大火で焼失した。後に残った土蔵を取り囲んで建てられたもので、平成 8 年 11 月に国の登録文化財建造物に指定された。修復された相馬楼は、1 階の 20 畳部屋を「くつろぎ処」とし、2 階の大広間は舞娘さんの踊りと食事を楽しむ宴会場とし、かつての厨房は酒田舞娘の稽古場として新設し、楼内の土蔵には雛人形や楼主・新田嘉一所有の書画や古美術などを展示し、地元の女性を採用し舞妓にみたくて当時の芸妓の舞を文化の伝承し相馬楼とし運営している。

② [視察研修の感想]

山居倉庫を訪ねて、昔し建てられた大型倉庫と思ったら現役で運用されてると聞き驚いた。視察した時期も山形では、一番厳しい季節でもあり明治 26 年の設計で建てられた倉庫が、現在のコンクリート造のものと変わらず震災にも耐えて運用されていた。

相馬楼は、現在観光施設とし当時のお茶屋をイメージし運営し舞妓と記念撮影や食事ができて、楼主・新田嘉一所有の竹久夢二の写真を展示し酒田市の観光地と栄えていた。

当市でも芸妓文化がありイベント等で芸妓の舞も見受けられ時期的には、観光客に踊りを披露されてはいるが年々芸妓も減少しているのではないかと思う。最終的には、当市も酒田市のようにならないように嬉野温泉に芸妓が歩く姿をいつまでも見受けられるように観光に来て頂くお客様を呼ぶように努力をしなければならないと思った。

③ 視察内容

東京ドームシティ テーブルウェア・フェスティバル 2015 ～暮らしを彩る器展～ 「喫茶うれしの」

平成 27 年 2 月 4 日（第 3 日目） 11：00～12：00

「概要」

主催・テーブルウェア・フェスティバル実行委員会(読売新聞社、株式会社東京ドーム

協力・佐賀県、長崎県、鹿児島県、瀬戸市、多治見市、土岐市、常滑市、輪島市、有田市、

波佐見市、青森県漆器協同組合連合会、一般財団法人京都陶磁器協会、京都陶磁器共同組合、瀬戸焼振興協会、波佐見焼振興協会、肥前陶磁器商工協同組合、その他

今年で、23 回目となるテーブルウェア・フェスティバルが、2 月 1 日から 2 月 9 日まで東京ドーム

ムにて開催され毎年 25 万人超の来場者が日本全国から訪れる。今回は、サブタイトルに「暮らしを彩る器展」と題し感性豊かな食空間を紹介する大イベントに「喫茶うれしの」も東京ドームの一面に出店されてあった。

② 【視察研修の感想】

今回、初めて東京ドームシティ テーブルウェア・フェスティバルを視察し出店数に驚きを感じた。個性ある 250 以上の販売ブースが出店し地方の窯元や作家の作品を直接購入することができるイベントに、一番大きな看板に「喫茶うれしの」と抱えられ販売ブースを一部の民間企業の窯元、茶商の方々に実行委員会を立ち上げられ出店されていた。今後、嬉野市の特産物や特産品の販路消費拡大や嬉野温泉を全国いや世界に広げるように、官民一体となって構想を持たなければならないと思った。